

行政視察報告書

令和5年11月6日

視察委員会名	議会運営委員会		
報告書作成者	副委員長 新 秀隆		
出席者氏名	委員長 小坂 直親	副委員長 新 秀隆	
	委員 森 英之	福沢 美由紀	
	岡本 公秀	伊藤 彦太郎	
	議長 森 美和子		
欠席者氏名	なし		
所管職員氏名	なし	随行職員氏名	議会事務局 事務局長 渡邊 靖文 グループリーダー 新山さおり 主任主査 西口 幸伸

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
10月4日	あま市	新庁舎建設特別委員会について
10月11日	桜井市	新庁舎建設特別委員会について

【愛知県あま市】

1. 新庁舎の概要及び特別委員会について

(1) コンセプト・設計趣旨

- ア 中枢防災拠点として市民の安全安心を守る庁舎
- イ 行政機能の拠点として市民が利用しやすい庁舎
- ウ 市民の交流拠点としてすべての人に親しみやすい庁舎
- エ 環境と共生する、人にも自然にもやさしい庁舎
- オ ライフサイクルに優れた経済的かつ長寿命な庁舎

(2) 敷地概要

敷地面積は、23,500㎡であり、海拔0mの地点で庁舎建設をしているため、津波対策など災害対策に力を入れている。

あま市においては、庁舎建設位置は合併協議の際に、七宝町地内である程度の位置を決定している状況であった。

(3) 議会フロア

議会フロアの要望も特別委員会で行った。議場は段差のないフラットな形状とした。小委員会で検討を重ね、犬山市、瀬戸市議会を視察した。可動式の議場とし、縦型の形状とした。多目的利用を想定し、思いやりスペースを設けている。子どもの保育スペースが今後の課題である。重度の車椅子の方まで対応可能としている。

(4) 建設費用等

事業費の内訳は、庁舎建設費75.8億円、用地取得費7.6億円、周辺道路整備費8.5億円、その他10億円で総額101.9億円である。

財源は、合併推進債、緊急防災減災対策事業債、まちづくり基金を活用した。

(5) 特別委員会

平成29年本会議で議長を除く全員で特別委員会構成し、下部組織として小委員会は会派の構成に合わせて8人とした。

平成29年7月から令和4年7月までで新庁舎建設特別委員会を合計17回開催している。

(6) その他

庁舎建設位置の決定に議会はほぼ関与していない。理事者側からの提案の通りである。当初の建設費をどう縮減していくのかで議会が検討を進めていた。建設費用抑制のため、CM（コンストラクションマネジメント）導入で専門家の意見を聞き、議論を進めることができた。契約段階では75億円となった。

地中熱を活用した空調システムについては、事業費の抑制に関する議会からの意見があったが、なんとか協力を得て進めた。なお、これには国の補助金は使用できなかった。

ほぼ全ての部課が庁舎に集約されているが、ただし、上下水道部と健康推進課は別施設に入っている。

【所 感】

- CM（コンストラクションマネジメント）を導入し、疑問点をしっかりと質して納得して進めていくことの大切さを強調されていたので、参考としたい。
- 議場の思いやりルームのような考え方は必要であると感じた。
- CM の設置が効果的であるとのことで、本市としても導入する妥当性はあると思うが、本市の状況を考えると CM の選定は庁舎建設の特別委員会が行うべきであると感じた。
- 特別委員会には全議員が所属しており、本市としても全員参加ということは検討すべきであると感じた。



【奈良県桜井市】

1. 新庁舎の概要及び特別委員会について

(1) コンセプト・設計趣旨

- ア 市民が使いやすい庁舎
- イ 市民交流の場となる庁舎
- ウ 市民のための安心・安全な庁舎
- エ 桜井の魅力発信の中心となる庁舎
- オ 環境にやさしい庁舎
- カ 将来の変化に対応できる庁舎

(2) 敷地概要

庁舎のみは7, 839. 27㎡。延床面積9, 633㎡は倉庫も含んでいる。
建設場所の候補については、3つ挙げられた。

- ① 民有地：取得に1年以上時間を有するうえ、経費がかかるので難しい
- ② 公有地の転用：市中心部から離れてしまうため利便性が低下する事業費の増加
- ③ 現庁舎の建替え：利便性は保持される

この3つの方法のうち、③の現在の場所での建て替えに決定された。旧庁舎の駐車場に新庁舎を建て、旧庁舎跡地は現在の駐車場となっている。

(3) 議会フロア

議会のフロアは、理事者側から案の提示があった。特別委員会は15回で終了しており、業者選定までであったため、その後は全員協議会の場で説明し、意見をもらって修正して作り上げていった。議場の机は動かないが、ビスを外すと移動可能である。

ヒアリンググループ機能を入れて音声認識している。

(4) 建設費用等

建設費用は当初の予定では45億円であったが、最終的には1億円増額となり、46億円となった。

事業費の内訳は、本庁舎建設工事が35億円、外構工事2.6億円、本庁舎除却工事2.5億円、什器備品購入1.2億円、その他経費3.7億円である。

(5) 特別委員会

特別委員会は、16人の全議員で構成し、基本計画策定から、基本設計、実施設計、事業者選定まで、平成29年3月から平成31年1月までの2年間、15回開催した。その後、令和4年10月の完成まで随時報告を受けている。

なお、執行部側の提案に対して、意見を述べて取りまとめを行った。特別委員会は、主に基本計画について議論し、複数案の中から適切なものは何か意見を述べることで基本計画に反映させて、この基本計画を通じて、基本設計及び実施設計に反映させた。

直接、基本設計や実施設計には関与していない。

(6) その他

障がい者への合理的配慮については、「障害者・児団体連合会」から新庁舎建設の要望書を平成29年にいただいております、できることできないことを整理し、事業費を考慮しながらできるだけ反映させていった。

ユニバーサルデザインの視点から、基本的にはローカウンター、車いすの方への対応

が可能な窓口としている。特に、サインに注力し、工事とは別の業者でサインを主な業務にしている業者へ依頼した。

危機管理については、災害対策の拠点とし、大規模災害の場合でも業務が行えるということから免震構造を採用した。免震構造以外に、72時連続稼働の自家発電装置、本線と予備線の2回線の引き込み、雨水を利用し、屋外広場にはマンホールトイレを設置、駐車場はフラットにし、災害時の活動ができるようにしている。

【所 感】

- ・新庁舎を建設する方針を決定して一年で基本計画と基本設計ができ、その1年8ヶ月後に実施計画が完了、方針決定から4年半で新庁舎が開庁と計画的であり、経緯等の資料も分かりやすい。分かりやすいということは、多くの方が理解しやすいということであり大切なことであると感じた。
- ・旧庁舎後方部の職員駐車場を建設予定地として選定し、土地購入予算を抑制していることについては参考とし、本市も慎重に選定を進めるべきである。
- ・障がい者にもやさしい環境づくりを進めているので、本市も参考とするべきである。
- ・整備費用が解体費等も含めて45億円程度ということで、建設地である元々の庁舎の駐車場が広がったという好条件があるにしても、非常に安価で驚きを感じた。
- ・職員が厳しいコスト意識で臨まれたことが伝わってきて、これについては、当市も大いに参考にしなければならないと感じた。

